

出題分析			
試験時間	100 分	配点 200 点	大問数 4 題
分量 (昨年比較)	[減少 <span style="border: 1px solid black;">同程度</span> 増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 <span style="border: 1px solid black;">難化</span> ]	
<b>【概評】</b> 例年通り 2 ページで収まる大問 4 つの構成であったが, [Ⅱ] ~ [Ⅳ] は完答するのが難しい. 計算量も多く, 受験生にとっては厳しいセットであった. [Ⅰ] では定番の「確率」と「複素数平面」が出題された. [Ⅱ] は(4)の積分の計算が激しい, [Ⅲ] は(4)の考察が難しい, [Ⅳ] は(5)の極限が難しい. どの問題も最後の小問が難しいが前半の小問は難しくはないので, できる限り取り組んでほしい.			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
[Ⅰ] (1)	〈空欄補充形式〉 確率 ・ 反復試行の確率	2 枚の硬貨を投げる試行に関する確率の問題. 反復試行の確率であることに気が付けば, そこまで難しくはない. <span style="border: 1px solid black;">イ</span> は必要条件から考える.	標準
(2)	複素数平面 微分法 ・ 最大・最小	複素数平面と微分法に関する問題. <span style="border: 1px solid black;">キ</span> は $\alpha$ の範囲に注意する. <span style="border: 1px solid black;">コ</span> は導関数を利用して次数を下げると計算ミスが減らすことができる.	標準
[Ⅱ]	〈記述形式〉 微分法 ・ 高次導関数 ・ 合成関数の微分 積分法 ・ 導関数の利用	高次導関数を利用して積分計算を行う問題. (3) までは微分法と対数の性質から定数や多項式を求める. (4) は(3)の結果を用いると被積分関数を $g(f''(x))$ の導関数に帰着させて原始関数を求めることができる.	やや難
[Ⅲ]	〈記述形式〉 図形と方程式 ・ 円 ・ 領域 2 次曲線 ・ 双曲線	座標平面上の直線と領域との共有点に関する問題. (1), (2) は領域を描くと 2 次方程式の判別式を考えればよいことがわかる. (3) では条件 (i) を $b \leq a$ と $b \geq a$ の場合に分けて考えるとよい. (4) では, まず(3)の条件(i)から領域 $E$ が領域「 $D_1$ または $D_2$ 」に一致することに気付かなければ難しく, その後は(1), (2)の結果を用いて, $s=1$ が不適であることと $s=7$ が適することを調べる必要がある.	やや難

〔IV〕	〈記述形式〉 数列 ・漸化式 極限 ・はさみうちの原理 積分法 ・部分積分法	漸化式と極限に関する問題. (2)は不等式を利用する. (3)の前半は部分積分法を用いて数列 $\{c_n\}$ に関する漸化式を立式する. 後半は厳密に記述するならば $r_n$ がただ一つしかないことを証明するべきである. (5)は $a_n=n$ を示し, $p, q$ の値を $c_n=d_n$ が成り立つように定めて考える.	やや難
------	--	--	-----

過去3年間の出題範囲

過去3年間の出題範囲								
年度	数学 I				数学 A			
	方程式・不等式	集合と論証	2次関数	三角比	場合の数 確率	平面図形	数学と人間の活動	
2026					[1](1)			
2025					[1](1)			
2024					[1](1)			
年度	数学 II						数学 B	
	高次式	複素数	図形と方程式	三角関数	指数対数	微積	数列, 数学的帰納法	
2026			[3]				[4]	
2025				[3]			[2]	
2024	[4]		[3]			[3]	[4]	
年度	数学 III				数学 C			
	関数	極限	微分	積分	平面ベクトル	空間ベクトル	複素数平面	2次曲線
2026		[4]	[1](2), [2]	[2], [4]			[1](2)	[3]
2025		[4]	[4]	[3], [4]		[1](2)		
2024		[1](1), (2)		[4]	[2]		[1](2)	

※[ ]内の数字は大問番号, ( )内の数字は小問番号をそれぞれ表す.

合格のための学習法

ここ数年, 「確率」「複素数平面」「ベクトル」「微分積分」といったほぼ同じ分野からの出題が多い. まずはしっかりと過去問に取り組むこと. また, 毎年1題から2題は「難問」が出題されるが, 解きやすい設問があることは認識しておいてほしい. また, 全体的に計算量が多く, 日頃から煩雑な計算でもしっかりとやり遂げる練習をしてほしい. 「解ける」と思った問題の正答率を上げることが大事である. 今回出題はなかったが, 「統計的な推測」についてもおろそかにせずに取り組んでほしい.